

神戸昇天教会月報

☎652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 341-4490

http://nssk-kobeshoten.org/ FAX (078) 341-4539

口座振替 01110-2-10517

2017年4月

復活節

祝御復活

「わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。」(ヨハネ 11:25-26)

司祭 ミカエル 小南 晃

4月に入り大齋節から聖週、そして復活日を迎えます。そして私たちはこの間にキリスト教にとって最も大切な出来事を記念します。即ち、それは主イエス・キリストの十字架という最も絶望的な死からの復活であり、そしてその死によって主が私たちの罪をすべて贖ってくださり、私たちにも永遠の命への復活が約束されたという福音そのものに他なりません。

またこの一年間に私たちは敬愛する4名の兄弟姉妹の方々、そして当教会前々任牧師の岡崎正司祭様を天国に見送ることになりました。ご遺族の方々にはまだ悲しみ、寂しさが癒えない方々もおられるかも知れません。しかしそうした時にこそ、今一度、私たちに与えられたこの復活信仰に堅く依り頼みたいと思います。

確かな復活信仰

さて冒頭の聖句は、愛する兄弟ラザロの死に嘆くマルタに対してイエスが語られたものでした。

マルタは嘆きつつも「終わりの日の復活の時に復活することは存じております(ヨハネ 11:24)」と答えます。復活信仰そのものは当時のユダヤ人たちも抱いていました。しかしイエスの言われる

復活信仰はさらに確かなものでした。それが冒頭に掲げた聖句です。

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない(ヨハネ 11:25-26)」。

ここまで言い切ったよきものかと思えるほどの言葉です。

しかし肉体的な死が本当の死ではないという信仰に立つならば、このイエスのみ言葉は理解できるものとなります。

そしてイエスはこの強い言葉で、復活を遠い未来に与えられるという永遠の命への淡い憧れではなく、主イエス・キリストを信じることによって肉体的な死をもって終わるのではない、真の命を、今現在、生きるように招いておられるということなのです。

他者の命・自分の命

ここでイエスは二つのことを語っています。第一に、主イエス・キリストを信じる信徒は肉体的に死んでも生きるということ。第2に、今、地上の生を生きる信徒にとっては、肉体的死が無意味になっているのであるから、本来の意味の死はもはや存在はしないということなのです。

またこのことは他者の命、自分の命ともとれるように思えます。

私たちは愛する兄弟姉妹が天に召されるのを見送ります。しかし自分自身の死を見ることはありません。愛する者の死はやはり悲しく寂しいものですが、イエスはその方々は必ず生きることをご告げ、そして再び会い見えることを約束されます。

一方、私たち自身、イエスを信じつつも死という未知の世界への恐れは簡単に拭きません。しかしイエスは「あなたは本当の意味では決して死なない。だから恐れるな」と語っておられるのです。

愛と喜びのうちに生きてこそ

「信仰と、希望と、愛、この三つはいつまでも残る。その中で最も大なるものは愛である(1コリント 13:13)」

永遠の命が喜びとなるのは、愛のうちに生きるからこそです。

もしも誰も愛することなく、また誰にも愛されることもなく、しかもいつまでも死ぬことがない、そのような世界は想像するだけでも恐ろしく思います。

私たちが神に愛され、神を愛し、そして私たちが互いに愛し合って生きるときこそ、至福の時、天国を生きることになるでしょう。

主の御復活を祝うこの時にあたり、復活信仰をより確かにされ、天に召された兄弟姉妹の復活の主にある平安を祈ると共に、私たちの愛をさらに増して下さるよう祈り求めたいと思います。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
 " 9時15分 教会学校
 " 10時30分 聖餐式・説教
 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
 土 午前10時30分 教会掃除
 (ご奉仕をお願いします)